

「なみふる」は古くからある大和言葉ですが、「なみ」は大地を「ふる」が揺れを意味し、地震をあらわす言葉として。奈良時代の日本書紀にも登場する言葉です。

日本周辺で発生する地震は、震度0の無感を含めて年10万回以上、1日約300回（震源決定できた数）が起きており、日本人にとっては、いにしへの昔より身近な存在であったわけです。

平成19年から最大震度5弱が予想される場合、緊急地震速報が気象庁より発表されるようになり、東北地方太平洋沖地震の余震時をピークに、すでに幾度も発表されています。

地震の波のうち、伝わるのが早く揺れの少ないP波と、伝わるのが遅く揺れの大きなS波との時間差を利用して、やってくる揺れがどの程度なのか、予想される震度を知らせてくれます。

大きな揺れの来る前にテレビやラジオ、携帯端末などを通じて、いち早く知らせてくれる緊急地震速報ですが、いざ発表された時、どのように行動すればよいか考えた事はあるでしょうか。

緊急地震速報が流れて大きな揺れが来るまでの時間はわずかなものですが、その間には少なくとも身を守る行動を取ることはできます。家庭では、大きなテーブルの下や家具から離れた広い場所で、頭を保護し揺れに備えます。外出先では、建物から慌てて飛び出さず、道を歩行中ならブロック塀や自販機から離れます。またバスや鉄道に乗っていたら、減速停車した後に速やかに手すりや吊革につかまり揺れに備えます。車を運転中なら、慌てて急ブレーキをかけず、ハザードを点灯させながら減速し路肩に寄せて止ります。これらはあくまでも一例にすぎず、その時と場所により対処の仕方はさまざまです。

地震が起きた時、緊急地震速報が流れた時、どのように行動し安全に避難できるかを考え、訓練しておくことは非常に重要です。また、けがなどからを守るために、家具の転倒防止やガラスの飛散防止などへの備えもしておきたいものです。

いつどこで起こるかわからない地震による災害を防ぐには、日頃からの備えを心がけておく事が肝要なのです。